

# 幼児の発表力について

〈 研 究 発 表 〉

関 治 子

普段口数が少く、何か聞いてもなかなか答をせずに「うん」と頭でうなずくだけで用を足してしまふような子どもが、私と二人きりで庭にいる時、家での出来事などをすらすらと話出して驚威を感じると同時に、とてもうれしかった事がある。

特別の障害のない限り、自分の言葉で話すという事が出来るようになってくる幼児では、黙って静かに遊ぶというよりは、本来の姿はむしろ、話しすぎなものだと思ふが、一旦集団の中に入ると、すっかり変ってきてしまふ。

その人の持っている言語の能力（語彙数・文章の使い方）というものにプラスして、性格、殊に集団の中に入った時の社会性などが随分大きな力を持っていると思ふ。「自分一人」という事と「自分をよく知っている親しい家族の中で」「親しい友達の中で」「はじめて遊ぶ友達の中で」「見知らぬ集団の中で」という対人関係の場が違ふことに適応していくのは大変な事だと思う。私達大人でも、対人関係の場というものでは、個性が強くなっているの、すべてに適応していくという事は出来ないが、抑制する力というものが一

方にあるから、その場その場を対処していくという事も出来てくる。

対人関係の社会集団のはじまりである幼稚園に於て、人の中、人の前で話すという事を考えてみた時に、幼児の特性として、次のような事を感じた。

1. 幼児は、場の不安というものがなければ、人と話すのを好む。

2. 自分の経験した事、或は幼児独特のうそを得々として話したがる。

このように一般に話したがる傾向を持っているようである。これが更に年令的に進んでいくと、

3. 人を意識して話したり、自分というものを認めて貰いたがる。

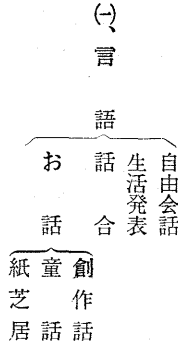
という傾向がみえてくるように思った。

幼稚園では、幼児の知らない単語をどれだけ沢山覚えさせるかとか、文字を教えるという所に教育の目標があるわけではなく、集団社会の中で、望ましい社会生活を送るよう、自分の意志というものを人に正しく通じ、人の意志もよく聞き、判断をするような所に目標も意義もあり、又それだけの困難もあると思ふ。

そこで、一体人の前で幼児はどれだけ自分を発表するものか、「人の前で」という特別条件を考慮して、今迄の二年余りの経験をふり返ってみた。

これは意図的に実験的な資料ではないが、保育日誌に記録された結果で、計画的な研究でない点はおことわり申し上げたい。

人の前で発表する場面を考えてみると、



(二)、うた (三)、ゆーぎなど動作を伴うもの  
(四)、劇あそび (五)、知能検査  
言語のうち、自由会話は記録もむすかしく、友達同志の会話では私のきいていない事が沢山あるので、私の実際にきいた生活発表をとりあげてみた。

### 三年保育のときの実態

男児九名、女児九名の計十八名の一クラス。三年保育の為、生活発表の機会は少く、十月からはじめ、それと併行してうたを皆の前で

うたった。

一人であたえる	女	男	女	男
うたいたいがうたえない	0	1	3	0
出て行ってはひきかえす	2	3	0	1
全然しない	4	3	0	0

### 三年保育の一年間を通して

人の前で積極的に発表したがる	女	男	女	男
発表はするが自発的でない	3	4	5	3
人の前ではなかなか発表出来ない	1	2	0	0

人の前でなかなか発表出来ない子どもは、他の幼稚園生活がまだスムーズにいていない所に理由もあるが、全然出来なかつた七人も三人に減じた。却って、無邪気に人前でしたがる子どももいるわけで、何かにつけて、雰囲気をもりたててみたが、積極的な子どもが八人にもなつた。

### 二年保育のときの実態

三年保育からの男女児十八名に、新入の男児十名、女児十名の計三十八名の一クラス。発表の機会は一年を通して生活発表十三回、うたの会二回、劇あそびの話し合い四回、自紙芝居の発表、その他の話し合いなどで、

ずっと多くした。

#### 1. 生活発表

場になれている子どもに発表させながら、新しい子ども達に発表させるように仕向けて指導した。六月には、全然しなかつた中から二人発表する事が出来、十一月に、全員が草原で輪になって坐り、端から順々に発表するようにしたところ、一人残らず、口を開く事が出来た。簡単でもよいという事と、場のつくり方などから、安定感があつたのか、この時はプラスになった。

皆の発表の折、私自身も何でもないつまらないような、実は本当の生活経験を話すと、つられて同様に話す子どもも出て来た。

九月頃から、特に発表したがる子どもが、くわしく長く一日の出来事を話す傾向が出て来た。これは男児三人であつたが、他の大部分は、比較的短くて、こちらから質問を加えたりして完全な話しになる場合が多かつた。又、子どもは過去・未来の時の観念がはっきり把握されていない為、友だちが○○へ行ったという、自分も以前行つた事のある○○に昨日行つたような気になつて話す事もある。年少に行く程多いと思う。

二年保育の一年間を通して

よくくわしく長く話せる

いつも普通に話せる

(この中にはいつも短い話、いつも小さい声のものもある)

話するが途切れ易い

(この五人はいずれも新入のもの)

女		男	
3	2	16	12
女		男	
0	4	6	10

## 2. 歌

ある日「なるべく一人でうたいましょう。」という事でうたをうたった。

一人でうたう

二人でうたう

三人でうたう

四人でうたう

女		男	
0	4	3	0
女		男	
6	4	6	4

組んでうたう時は同性同志で、仲のよい友達だった。

歌となると歌詞とメロディーを知っていないてはならず、集団の前では余計気おくれがあるが、子ども達は歌が好きであるからうたの会のような形式にして楽しませたり、或は二・三人に皆でうたった後うたわせたり、ごっこあそびの中で一人ずつうたわせてみた。指名しても憶せずに歌うもので、いつも同じ

子どもを指名しない事を気をつけた。

### 3. 劇あそび

劇あそびでは、はじめの話し合いから、役の決定、動作、セリフなどすべて人の前で発表しなくてはならない。思わぬ子ども達の性格の障害にぶつかったり、保育者が普段気をつけながらもその子どもについて固定した観念を持つてしまいがちなのに、よい反省となり、よい収穫にもなった。

劇という雰囲気にあこがれてか、子ども達の劇に対する意欲と劇あそびの喜び方にはおどろかされた。

組一番の権力者でリーダーであった男児が、意外にも、自分のなりたいたい役が、最後まで皆の前で意志表示出来なかった。リーダーとして体力的に優れていたが、大変意気地なして、お話の発表も不得手であった。翌年の劇あそびでも役をきめるのに又、同じ事をくり返していた。

又、ある役を三人位で練習し、一人が休んだ時、次の一人は自分がどうも大きい声で云えないといって引きさがり、残りの一人がした事がある。日頃わけわからずの所があり、余り発表も得意ではなし、私自身この子ども

についてはよくわからずいたのであるが、よく落ちついて、思いがけずしっかりし、今まで片鱗すらみられなかったのみ込みのよさにおどろいた事もあった。

セリフは比較的短く簡単なものが多く、多勢で云う場合が多かったが、生活発表でよく出来ない五人は、この劇あそびでも殆ど聞えない程の声だった。こういう子どもには、動作などよい時にほめたり、何かの形で自信を持たせるように指導してみた。なかなか自分の役をきめられない子どもには、して出て出ななければ他の役をしてみてもよいし、絶対的でない事を話して、迷わずに一応きめるように指導した。

### 4. 知能検査時の発表のようす

特に知能検査という特別な場面をとり挙げたのは、子ども達に数多く接している私が、検査者となって一人ずつ実施したので、特別なテストの雰囲気の中で発表の態度をみる事が出来たからである。

ここでは、I・Qとの関係はふれない事として、田中ビネー式知能検査では、言語性検査の場面が多いので、発表せざるを得ないから、これはよい機会であった。

生活発表でくわしく出来た四人

- 一、興味が表面的で何となくうわすべり、質問の意をつっかりと把握していない。
  - 一、よく話す落ちつきがない。
  - 一、よく答えるが要領を得ていない。
  - 一、適切に答えている。
- 数多く話す子どもには、発表力をこわさず、よく落ちついて考え、適切な答をするように注意する事を指導する必要性を感じた。

生活発表では普通に出来る二十九人

- 一、よく粘って考える。
  - 一、真剣な態度でしている。
  - 一、活潑さが無いが答える。
  - 一、生活発表の時と同じ態度調子である。
- 劇あそびで役のきめられない男児
- 一、言葉や表現を知らないのか迷う事が多い。
- 生活発表不得手な五人
- 一、答はするが、途切れ途切れ話す。
  - 一、答にうかつなところがある。
  - 一、なかなか返事をしない。
  - 一、一旦だまってしまうとなかなか返事しない。
  - 一、余り口をきかず、ただにこにこ人の顔をみている。

## 一年保育のときの実態

一年保育はまだ約二ヶ月にすぎないが、この間生活発表五回、話し合いは雨の日、速足、

劇あそびなどをした。

### 1. 生活発表

長くくわしく話せる

(このうち三人は三年保育より)

普通 (時々長く話せる)

何か難点がある

	女	男	女	男
長くくわしく話せる			0	7
普通	16	10		
何か難点がある	3	2		

長く話す子どものうち創作話二人、桃太郎の

話一人した。

難点のある五人の状態と考察・指導

《Aについて》(男児)

#### 1. 発表の状態

すぐに話が出来ず、一分二分と考えたりだまってそれから話し出す。五回のうち三回までテレビをみた話題。うたもうたい出しがおそい。

#### 2. 日常の状態

組では人気があり、のんきで子供らしい。集中力・耐久力は余りなく、幼い所がある。

#### 3. 家庭の状態

独り言をよくいう。

#### 4. 原因、性格的

#### 5. 指導

この子どもには暫く話し出さずに立っている間、皆が笑わないようにし、発表意欲を

失わせぬよう注意し、普段の遊びやおべん

とう時に近くに坐って、誘いかけて質問しては話すように仕向けて、段々と間をおかずに云えるようにしている。

《Bについて》(男児)

#### 1. 発表の状態

「さ行」が言いにくく、発音はつきりせず、皆の方をみないで、私の方ばかりみている。うたは鼻声。

#### 2. 日常の状態

おとなしくて、一つの事を長くしている。描画・砂場・積み木などすべて電車と関係のあるものが好きである。全般に余り口はきかず、甘える所がある。

#### 3. 家庭の状態

こまかい事を気にし憶病である。「さ行」発音に難点がある。

#### 4. 原因

気が小さい。発音に難がある。

#### 5. 指導

「さ行」がむずかしいので、気をつけてゆっくり云わせ、大きな声で云うように、くり返し注意をする。友だちとよく話すようにする。

